

《 歌詞大意 》

夜と夢 D825 コリン

聖なる夜よ お前は地上に降り立ち
夢もまた地上に降りてきて
お前の月の光が大気に満ちるように
人々の静かな胸を満たす

人々はその夢を喜びとともに味わい
夜が明けるとき叫ぶ
優しき夜よ ふたたび帰ってこい！
優しき夢よ またふたたび！

他の星は愛から離れているのです」

お前を彼らのところに行かせよう
お前はためらうことはない
誰がお前に逆らおうとするのか
甘美な気ままな光よ
「私は種をまきますが
芽生えを見たことはないのです
だから家で静かに悲しんでいるのです」

夕映えに D799 ラッペ

おお あなたの世界は何と美しいことか
父よ 世界が金色に光る時！
あなたの輝きが沈んでいき
ほこりを淡く染める時
雲の中できらめく赤いものが
僕の静かな窓に沈む時！

僕は嘆きおびえるであろうか？
僕と僕の中をさまよっているだろうか？
いいえ僕はあなたの
この天国をこの胸に抱いていこう
そしてこの心が裂ける前に
炎を そして光を飲みつくすのだ

さすらい人 D489 v.リューベック

僕は山からやってきた
谷は霞み 海は荒れる
僕は喜びもなく静かにさまよっている
そして溜息は繰り返し問う：「何処か？」と

僕には太陽も冷たく
花は萎れ人生も老いてしまっている
そして人が語る言葉も空しく響く：
僕は何処に行ってもよそ者だ

何処にあるのか 僕の愛する大地よ
求め憧れそして未だ見ぬ大地よ
大地よ それほど希望が緑に輝き
僕の薔薇の花が咲く大地よ
友が歩きまわり逝った人がよみがえる大地
僕の言葉を話す大地よ 何処にあるのか

夕星 D806 マイヤホーファー

なぜお前は一人空に留まっているのかい
美しい星よ そしてなんと優しいのか
なぜ兄たちのように光り輝く群れから
お前は遠ざかっているのかい
「私は愛に誠実な星です

僕は喜びもなく静かにさまよっている
そして溜息は繰り返し問う：「何処か？」
と声が響き返ってくる：
「おまえのいない場所に幸福がいるのだ」

秋 D945 レルシュタープ

風が秋らしく冷たくざわめいた
畑は荒涼とし 森は葉を落とした
花咲く野よ 陽に輝く緑よ
人生も花のように枯れ果てるのだ

灰色の雲が暗く流れる
青い空の星も消えてしまった
ああ星が空から消えるように
人生の希望も沈み消えていくのだ

薔薇の花で飾られて春の日よ
あのころは彼女をこの胸に抱いていた
風よ 冷たく丘を越えてざわめき消えていけ
愛の薔薇もそのように死んでいくのだ

プロメトイス D674 ゲーテ

ゼウスよ 天上を雲の靄で覆ってしまえ
そして檉木と高い山の上で子供と同じように
アザミの頭を切り落としてみる
俺の世界のことは放っておけ！
そしてお前の建てたのではない俺の小屋と
その炎のために俺を恨んでいるかまどを

この太陽の下でお前らより惨めなものを
俺は見たことがない 神々よ！
お前たちは僅かな生け贄と祈りの言葉により
お前たちの権威を保ち
もし子供たちと乞食たちが希望にあふれた
愚か者でなかったら飢えていたであろう

子供で何も分からなかったころ
俺も困惑した目を太陽に向け
まるであの上に俺の嘆きを聞いてくれる耳と
俺と同じような心があり苦しむものを

憐れんでくれると思っていた

誰が巨人たちの暴挙から俺を助けてくれた！
誰が俺を奴隷状態の死から助けてくれた！
お前が全て自分でやり遂げたのでは
なかったのか

神聖に燃える心よ 若々しく善良に
欺かれながら救済を天上で
眠るものに対して感謝して燃えたのか

俺がお前を尊敬するかって 何のために
お前は一度でも重荷を負った者の苦痛を
癒してくれたのか
お前は一度でも不安におののく者の涙を
静めてくれたのか

俺を男にしてくれたのは
全能の時間と永遠の運命ではなかったのか
俺の主でありお前の主でもある
お前は俺が人生を憎むはずだと
全ての花の夢が実るわけではないのだから
砂漠に逃げ込むはずと思っていたのか

ここに俺は座り 俺の姿に似せて
人間を作る

俺と同じ種族をだ
苦しみ 泣き
楽しみ 喜び
そしてお前を敬わない種族をだ
俺と同じように！

1. 愛の伝令 レルシュタープ

金色にそして明るくざわめく小川よ
元気に恋人のもとへ急ぐのかい？
ああ 信頼する小川よ
僕の使者になっておくれ；
遠く離れた彼女のもとに
僕の挨拶を届けて送れ

彼女が面倒見ている庭の花も
そしてやさしく胸に差すすべての花も
そして燃えるような真紅のバラにも
小川よ 冷たい水で元気づけておくれ

もし彼女が岸辺で 夢に沈み込んでいたら
僕の想いで、首を傾げていたら
やさしく見つめて慰めておくれ
恋人はすぐに戻るからねと

太陽が赤く輝きながら沈んでいく時
彼女を眠らせてやっておくれ
ざわめきで甘い安らぎにいざなっておくれ；
彼女に愛の夢をささやいておくれ

2. 戦士の予感 レルシュタープ

僕のまわりで戦友たちは
深い憩いについている
僕の心は本当に不安で重く
憧れが僕を熱くする

彼女の胸に暖かく抱かれている
甘い夢を幾度となく見た
彼女が僕の腕の中にいると
炉の炎さえも親しげに見えた

暗い炎が輝くこの場所に
ああ武器にしか映らない場所、
ここでは心が一人ぼっちで
悲しみの涙が込み出してくる

心よ 慰めがおまえを見放さなければいいが
まだ戦いが呼んでいる
まもなく僕は安らぎと永遠の眠りにつこう
心から愛する人よ おやすみ！

3. 春のあこがれ レルシュタープ

ざわめく風よ やさしくふけ
花の香りよ 息に満たせ！
おまえらの挨拶は
僕に喜びをもたらすようだ！
何を僕の脈打つ胸にしたのかい？
風に乗っておまえたちについていきたい：
どこへ どこへ？

小川よ 元気に
ざわめきの音を立てよ
銀色に輝き谷へと下っていきたいのか
波は揺れながらいそいそと流れていき
野原や空は底深く映っている
憧れの心よ なぜ僕を誘うのか
下へ 下へと！

挨拶する太陽よ 金色に輝け
希望の喜びをおまえはもたらしてくれる
おまえの幸福な姿が僕を元気にしてくれる！
紺碧の空からやさしく微笑みかけ
そして僕の瞳を涙でみたく
何故 何故に？

緑に包まれる森や山よ！
花吹雪で輝き舞いさかれ！
すべてが婚礼の光となりおしよせる：
若芽はふくらみ つぼみははじけ開く：
すべてを 自分にはないものを見つけたのだ
そしておまえは？ おまえは？

絶えることのなき憧れよ！
願う心よ いつも涙し
嘆きと痛みだけなのか？
僕にも高なる衝動がわかる！
誰がいったい僕のこの激しい欲望を
鎮めてくれるのか？
おまえだけがこの胸の春を解き放ってくれる
おまえだけ おまえだけが！

4. セレナーデ レルシュタープ

僕の歌はそっと この夜の中を
あなたのもとへと飛んでいく
静かな森の中へ降りてきておくれ
いとしいひとよ 僕のもとへ！

細い梢がこの月の光の中で
ささやくようにざわめき
悪意を持って聞き耳を立てる人を
心配することはありません！

ナイティンゲールの歌う声が聞えるかい？
ああ 彼らもあなたに願っているのです
甘く嘆くような声で
僕に代わって祈っているのです

彼らは胸の憧れがわかるのです
愛の痛みを知っているのです
あの銀色の調べで

繊細な心を感動させるのです

あなたの胸の感動でふるわせよ
愛する人よ 僕の言葉を聞いておくれ
震えながらあなたの所へ向かっているのです
僕を幸せにしてください

5. すみか レルシュタープ

ざわめく流れよ どよめく森よ
そそり立つ岩山が僕のすみか
波に波が重なるように
僕の涙もつねに新しく湧いてくる

高い樹幹が風に波立つが如く
僕の胸は絶え間なく鼓動する
この岩が太古からあるが如く
僕の痛みは永遠につづく

6. 遠い地にて レルシュタープ

悲しいかな 逃れる者
世間を去っていくもの
異国を通り過ぎ 故郷を忘れ
生まれた家を憎み 友を見捨てる者
幸福はついていかない ああ
彼らの行く道にはついていかない

心はあこがれ 瞳は涙し
あこがれは果てしなく故郷へと向かう
胸は高まり 嘆きはこだまし
夕星は輝き望みもなく沈んでいく

風はざわめき
波はやさしく渦巻く
日の光は急ぎ どこにも留まらず：

苦しみと共に この誠実な心を破った女に
世間を逃れるものからの言葉を送ってくれ

7. わかれ レルシュタープ

さらば！ 元気な、楽しい町よ！
僕の馬はもう旅に出ようと足を鳴らしている
今もう一度最後の挨拶を受けてくれ
おまえはまだ僕の悲しげな顔を
見たことはないだろう
だから今別れの時も見ることはいさ

さらば！ 緑の木々よ 庭たちよ！
僕は今銀色に光る川に沿って馬を駆る
僕の別れの歌は遠くまで響き渡る
おまえたちは決して悲しげな歌を
聴いたことはないだろう
だから別れの時も聴かせないさ

さらば！ その優しい娘さんたち！
何をいたずらっぽく誘う目で
花香る家より見ているのかい？
いつものように 僕は挨拶をして辺りを見て
いく：
でも決して馬を返したりはしないからね

さらば！ 愛しい太陽よ 憩いの時を
迎えるがいい！
今はもう星たちが金色にきらきらと輝く
おまえら空の星たちが何となつかしいことか：
僕らはこの世界を遠く旅をつづけ
お前たちは忠実にどこでもついて来てくれる

さらば！ 明るく輝く小窓よ！
おまえは夕暮れの光に悲しげに輝く
そして親しげに小屋の中に僕たちを誘う

ああ何度僕は馬で通り過ぎたことが
そして今日が最後の日になるだろうか？

さらば！ 星たちよ 灰色の空に消える！
小窓の鈍く暗い光は
おまえたち無数の星たちでもかなわない：
僕はここに留まることはできず
通り過ぎるのみ
忠実についてきてくれたと
何の助けになるだろうか！

8. アトラス ハイネ

僕は不幸なアトラス！ 世界を
苦しみの世界を僕は背負わなくてははいけぬ
負うことのできぬものを背負い
僕の心は体の中で張り裂けそうだ

誇り高き心よ！ おまえが望んだことだ！
おまえは幸せになりたかった
限りない幸せに
それとも無限の不幸 誇り高き心よ
そして今おまえは不幸になった

9. 彼女の肖像 ハイネ

僕は暗い夢の中でたたずみ
そして彼女の肖像を見つめた
そしてその愛する顔は
ひそかに生気を帯び始めた

彼女の口元には
不思議な微笑がただよい
そして悲しみの涙に濡れたように
彼女の二つの瞳は輝いていた

僕の涙は頬をつたって
流れていった
ああ僕は信じられない
おまえを失ってしまったとは！

10. 漁師の娘 ハイネ

美しい漁師の娘さん
小舟を岸につけ
ここへ来て座ってごらん
手に手をとって仲良くしましょう

僕の胸に頭をつけてごらん
そんなに怖がることはないんだよ
君は毎日安心して
荒海に身を任せているじゃないかい

僕の心も海と同じだよ
嵐もあれば満ち干きもある
そしてたくさんの美しい真珠も
その底のほうにはあるのさ

11. 都会 ハイネ

遠い地平線に
幻の影のように
塔が立った都会が
夕暮れの中に現れた

一陣の湿っぽい風が
灰色の水面を通り過ぎ波を立てた
僕の小船は船頭が
悲しげに櫓を漕いでいる

太陽がもう一度
地平線より昇り照らした

そして僕がかつて愛する人を
失った場所を照らし出すのだ

12. 浜辺にて ハイネ

海は夕暮れの最後の瞬間
一面に輝いていた
僕達はひっそりと漁師の小屋のそばに
たった二人きりで座っていた

霧が立ち上り
潮が満ちて鷗が飛び交い出した
君の瞳から愛情にこもった涙が
いくつも流れ出していた

僕は君の手に涙が落ちるのを見て
そしてひざまずいた；
僕は白い君の手に落ちた涙を
むさぼるように飲んだ

あの時以来僕の身体は憔悴し
魂は憧れで死んでしまった
あの不幸な女が
僕に彼女の涙で毒を注いだんだ

13. 影法師 ハイネ

夜の静寂に 路地は眠りにつく
この家に僕の恋人が住んでいた：
彼女はとっくに町を去ってしまったが
そこに家は同じところに立っている

一人の男が上を見つめたまま立ちすくみ
そして腕を激しい苦痛によじっている：
彼の顔を見たとき 僕はぞっとした
月が照らしたのは僕自身の姿なのだ

おまえ影法師よ！ 青い顔した仲間よ！
どうして僕の愛の苦しみを真似るのか
昔この場所で僕をいく夜も
苦しめた苦しみを！

だから僕も鳩を胸に抱きしめるのだ
それが一番のご褒美
その鳩の名前は - あこがれ -
ご存知ですか？ 忠実な心をもった伝令を

14 . 鳩の便り ザイドル

(訳：河野克典)

僕は伝書鳩を一羽持っている
とてもなついていて忠実だ
決して道草を食うことないし
飛び去ることもない

僕は何千回と 毎日鳩を放し
多くの素敵なところを通らせて
恋人の所に飛ばすんだ

そこで窓から鳩はそっと
彼女の様子をうかがい
僕の挨拶を伝えては
彼女の返事を持って帰ってくる

手紙を書く必要もない
時には涙さえも運んでくれる
おお 涙もちゃんと届けてくれ
全く熱心に尽くしてくれる

昼も夜も起きていても夢の中でも
鳩には全て同じ
飛んでさえいられれば
鳩は幸せなんだ

疲れたり弱ることもなく
道はいつも新しい
気を引いたり褒美をやる必要もない
鳩は僕にそんなにも忠実なのだ